

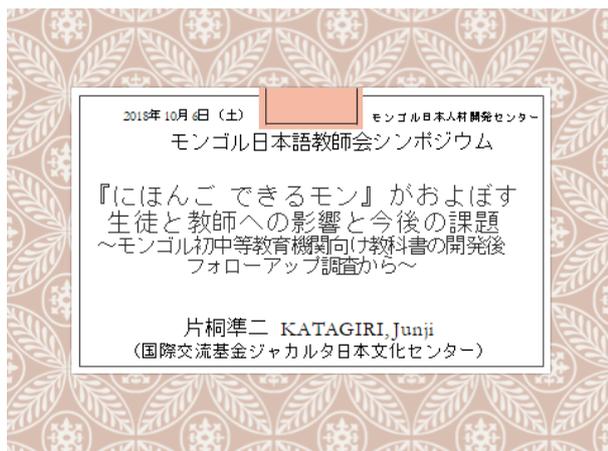
基調講演 ②



「『にほんご できるモン』が及ぼす
生徒と教師への影響と今後の課題」

片桐 準二 先生

国際交流基金ジャカルタ日本文化センター
日本語上級専門家



1

内容

1. 『にほんご できるモン』について
2. フォローアップ調査について
3. フォローアップ調査の結果
4. 調査結果のまとめ
5. 課題と提言

2

『にほんご できるモン』について①

- ・モンゴル日本語教師会の教科書開発プロジェクト
 - ・初中等教育の日本語教師と新スタンダードを学びながら、教科書を開発するプロジェクト
 - ・2012年～2017年の約5年間で8巻完成
- 『ひらがな』 『カタカナ』
『できるモン1上』 『できるモン1下』
『できるモン2上』 『できるモン2下』
『できるモン3上』 『できるモン3下』

3

『にほんご できるモン』について②

モンゴル日本語教育スタンダードの理念

- (1) 社会の中で自分の考えを自由に表現し、相互理解するのに必要な外国語能力の育成
- (2) 子供たちが自分自身の力で学習を進めていく能力の育成

教科書の特徴：モンゴル日本語教育スタンダードの理念を反映

- (1) プロフィシエンシー重視＝モンゴルの生徒が実際の生活で使える内容を取り上げ、can-doで目標提示
- (2) 自律学習支援＝自分で考える、振り返る、評価する

4

フォローアップ調査について

目的：プロジェクトの成果を確認するとともに、『できるモン』の使用状況、生徒と教師への影響や変化、教科書の改善点を調査し、今後の課題を見つけること
 対象：『できるモン』開発プロジェクトに参加した初中等教育機関の教師
 時期：2017年10月
 調査方法：授業観察(6コマ)
 教師へのインタビュー(6人)
 (うち、モンゴル人教師5名、日本人教師1名)

5

フォローアップ調査の分析方法

Modified Grounded Theory Approach(M-GTA)

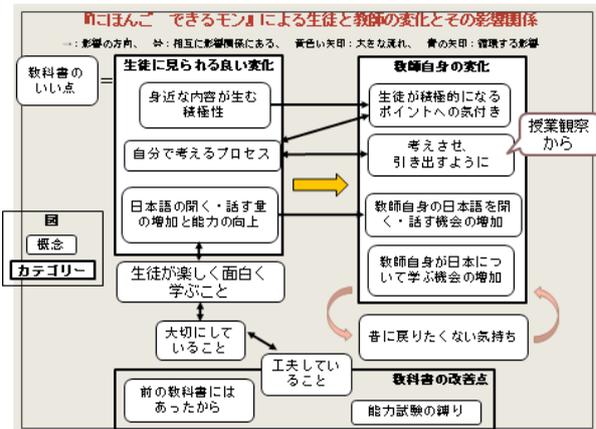
- ①半構造化インタビュー音声→文字化(スク립ト作成)
 - ②授業観察記録→文章化
- ①②をMAXQDA2007というソフトを使って分析
- 1)発言内容の類似例を集めて【概念】を生成
 - 2)【概念】間の関係から<カテゴリー>を生成
 - 3)【概念】<カテゴリー>の関係を考えてモデル図を作成→ストーリーライン
 - 4)考察まとめ

6

フォローアップ調査の結果

データが少なく、変化のプロセスを詳細に分析できなかったが、
 14の【概念】と3つの《カテゴリー》を生成し、モデル図とストーリーラインを作成した。

7

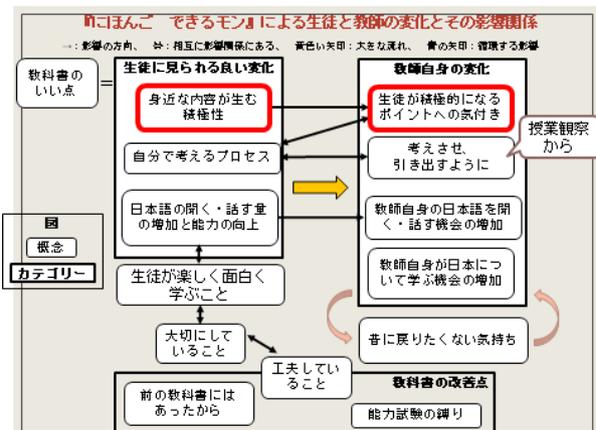


8

ストーリーライン

【教科書のいい点】として《生徒に見られる良い変化》がある。それは、生徒に【日本語を聞く・話す量の増加と能力の向上】が見られ、生徒の生活環境を内容に取り込んだことで【身近な内容が生む積極性】が生まれ、自由に会話を作ったり、モンゴル語で考えを進めたりする【自分で考えるプロセス】が起きたことである。そして、これは教師にも影響を与えて《教師自身の変化》を導き、【生徒が積極的になるポイントへの気付き】【考えさせ、引き出すように】生徒を支援し、【教師自身の日本語を聞く・話す機会の増加】【教師自身が日本について学ぶ機会の増加】が起きている。また、【日本語を聞く・話す量の増加と能力の向上】と【生徒が楽しく面白く学ぶこと】は相互に関係していること、教師に【昔に戻りたくない気持ち】があること、教師が挙げる《教科書の改善点》に【能力試験の縛り】や【前の教科書にあったから】などがあり、これを教師自身が解決するために【工夫していること】【大切にしていること】がある。

9



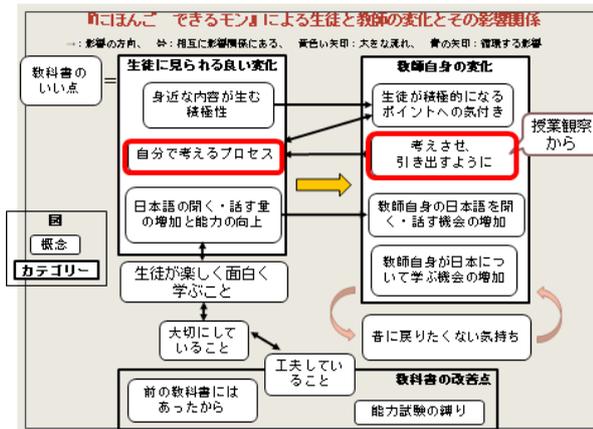
10

【概念】と発言例①
 カテゴリー 《生徒に見られる良い変化》
概念【身近な内容が生む積極性】
 発言例
 (1)A:自分のうちの周りには他に教科書以外に、教科書の中にある言葉以外にもこういう建物とか場所があるっていうことを言い始めた
 (2)A:例えば、一人の女の子の近く、うちの近くに子供病院がある(中略)それが一番自分としては分かりやすいし、人に道を教える時に、子供病院を教えるると自分のうちはすぐに分かるという、そういう、なんか、言葉が自分は使いたって言ったんですよ。
 (3)B:学校というトピックの中に、学校、全員何千人とか、日本のさくら学校は六百人、小学校、で、モンゴルのXX学校は、分かる人が、生徒がいなかったんですね、で、その時は千、千何百だっけ千七百ぐらいあったんですね、えー、千七百もいるんだ、いってましたね

11

【概念】と発言例②
 カテゴリー 《教師自身の变化》
概念【生徒が積極的になるポイントへの気づき】
 発言例
 A:そうですね、教科書の中に出てくる言葉で、自分のうちの周り、近くにはこんな場所はないとか、そういう、ま、自由に言ってたんですよ、そして一人がうちの近くに子供病院がある(って言い出して) (I:この『できるモン』を使っていない、昔の教科書を使っている時はそういうようなことは) ぜんぜん、全くありません、ほんとに、うそみたいですけど、私の頭にもそういうことが浮かばなかったです、だから、教科書にある言葉しか(教えなかった) (中略)で、自分に関係ある語彙ってのがね、増えたほうがいいかなと思ったんです
 E:小学校と中学校と違うんですね、小学生は文法のところは面白くないですね、中学生は文法書いて、聞きます

12



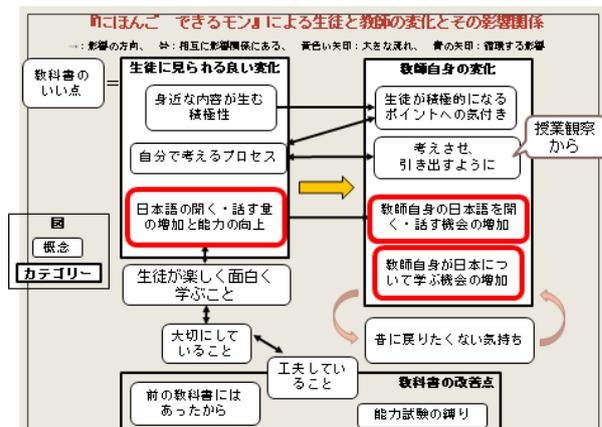
13

【概念】と発言例③
 カテゴリー 《生徒に見られる良い変化》
概念【自分で考えるプロセス】
 発言例
 B:前はあまり質問、なかったというか、ま、先生、こういう文法、教えてください、そういうのが多かったんですけど、今は、ちょっと考え方がちょっと違うのかな(中略)どうして、どうしてというのが多くなって
 B: (「考えましょう」について) (生徒自身はどうですかね、昔の教え方をしている時はそんなに考えることはなかったと思うんですけど) B:そうですね、全然ない、うん、あまり考えないのが多かったんですけど(略)今はちょっと考えたりして、生徒たちからも、いろんな、なんか、おもしろいアイデアとか出てくるんで、考えるようになった、とは言えます

14

【概念】と発言例④
 カテゴリー 《教師自身の变化》
概念【考えさせ、引き出すように】
 発言例
 C:例えば規則という言葉、ありましたよね、で、私翻訳しないの、何でしょうかって、あの一生徒に言わせるようになった、自分で考えて、これは何だかって考えさせていくのが、すごくいいですね
 授業観察メモ
 「学校へ行きます。」「家へ帰ります。」の音声を聞かせる。教師は「『へ』は何と発音していますか。」と聞く、生徒はなかなか答えられないので、繰り返し音声を聞かせる。最後に生徒が「へ」が「え」と発音されているのに気が付く。

15



16

【概念】と発言例⑤

カテゴリー《生徒に見られる良い変化》

概念【日本語の聞く・話す量の増加と能力の向上】

発言例

A:前は書く練習がほとんどなので、書く、書けば分かるという感じだったんですけど、今、書く、ま、書くよりは、ま、なんか、言ったら、聞いて分かる、そういう能力というか、そのほうがアップしたというか、上がった感じがしますね

17

【概念】と発言例⑥

カテゴリー《教師自身の变化》

概念【教師自身の日本語を聞く・話す機会の増加】

発言例

(I:『できるモン』の教科書を使い始めて変わったこと、先生が変わったことって何かありますか) c:はい、あります。あの一、前より日本語で話せるのは、あの一、増えた、というか、よく生徒との付き合いが仲良くなったというか、それが一番いい点ですね (E:あ一、じゃ、先生が日本語を使うのが多くなった) c:多くなった (中略) c:それから黒板にあまり、黒板は使わなくなりましたので、それはすごくいい、黒板に書く時間は生徒と話したりするのはすごくいいことですね

18

【概念】と発言例⑦

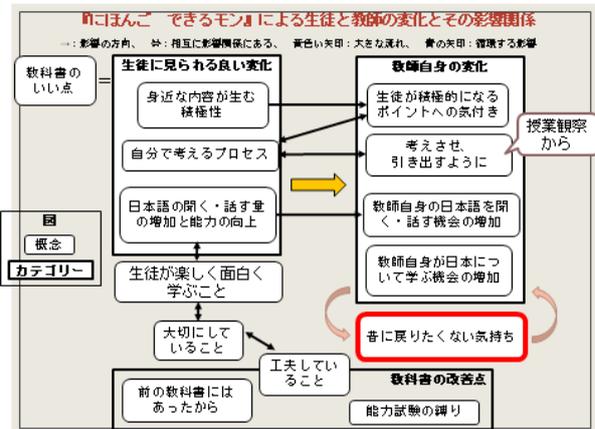
カテゴリー《教師自身の变化》

概念【教師自身が日本について学ぶ機会の増加】

発言例

c:最近はね、やっぱり日本のことよく出てるから、日本についてよく質問されるんですよ、で、その時分らないときもありますので、それ、たまには困ります (中略) c:あとで調べて言います (中略) だんだん、日本のことをよく勉強してます

19



20

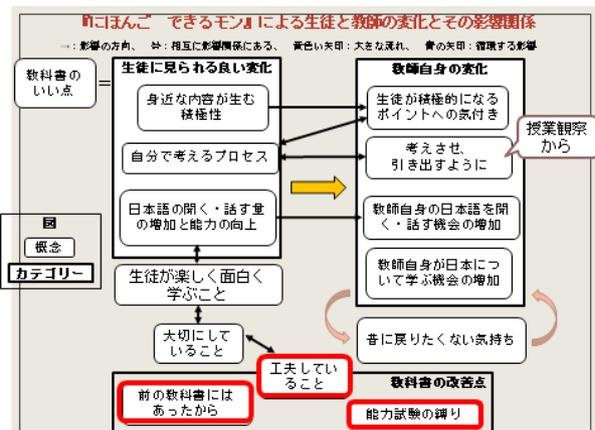
【概念】と発言例⑧

概念【昔に戻りたくない気持ち】

発言例

B:せっかく can-do とか言って、この教科書もね、新しいスタンダードの can-do とか言って作った教科書なので、あの、教師が前の教え方になっちゃうと意味がないじゃないですか
 A:そうですね、文法はあんまりないですね、まだ不安があるんですよ、文法はしなくていかなって不安はあるんだけど、ちょっとまだ分かんないんです、正直言って (中略) 動詞に関しては、これやると一番早い (中略) やっぱ昔の I グループ、II グループ、III グループ (中略) それですと、また、なんか、昔に戻るような、文法中心に戻るような気もするんですけど

21



22

【概念】と発言例⑨

カテゴリー《教科書の改善点》

概念【前の教科書にはあったから】

発言例

E:『できるよ』はちょっと読み物の「大きなかぶ」とか、ちょっと読み物のほうが入っていたので、生徒たちに読み練習をさせる時にいいことだった、(中略)『できるモン』のほうは(中略)少ないかなと思っているんですが

E:『できるよ』に日本の歌も入っていた、「ぞうさん」とか、日本の歌が入っていたので、日本の詩とか歌とか教える時に(よかった)

B:『できるモン』のほうが書くのが、ちょっと少ない

23

【概念】と発言例⑩

カテゴリー《教科書の改善点》

概念【能力試験の縛(しば)り】

発言例

B:学校のほうからは、JLPTのN5、4、3までいくように言ってるんですけども、漢字が少ないので『できるモン』なんで、漢字の授業はまた増やしてやらないといけない

D:漢字が少ない、だから、えーといつも毎年能力試験を受ける子どもたちが、たくさん受けるんですけど、そんな少ない漢字で教えるのはちょっと難しい

E:能力試験をうける時に、文法、文法をしていかなければいけない、しなければならぬ

24

【概念】と発言例⑪

カテゴリー《教科書の改善点》

概念【工夫していること】

発言例

B:今日の発表みたいに、ちゃんと書く能力も、何と言うの、失わないようにというか、なんか、今日の発表みたいにノートに書いてから言う

A:漢字が少ないので、ま、前から言っていましたけど、漢字も、あの、例えば、色、どんな色が好きとかいうところあります、トピックで、服装のところ、そこに色と好きという、2つしかないんです、そこに、私、赤も青も白も足しました

25

教科書のその他の問題点

導入部分：イラスト→会話の予測

→(考えまじょうの後で)日本語にするのは難しい

考えまじょう：簡単すぎるものがある

ヒントを見て、それをそのまま書いている

問題練習が少ない

結局、教師はどう教えたらいいかわからない

(文法シラバスの時のような説明でいいのかどうか)

振り返り：難しい

「もっと日本語が上手になりたい」とだけ書く

自己評価：1人2人と話しただけで高く評価

慣れてくると、考えないで3つ塗っている

音 声：音が悪いところがある

その他：教師グループでテストや復習問題を作るのが必要

(勉強しても生徒はすぐに忘れる)

26

まとめ

1. 教師から見た生徒の変化について

日本語を聞いたり話したりする量が増えた。

➢自分に身近な生活の言葉が学べるようになり、学習が積極的になった。

➢自分で考える部分がある。

➢学習が楽しく面白くなっている。

2. 教師の変化について

生徒の学習が積極的になるポイントが分かるようになった。

➢生徒に考えさせることができるようになってきた。

➢教師も日本語を聞いたり話したりする量が増え、日本について学ぶ機会が増えた。

27

まとめ

3. 教科書の改善点について

➢改善すべき点は、JLPTを考慮した漢字の扱いや文法の説明方法・練習方法、以前の教科書にあった読み物や歌の扱い、小学生と中学生の違いを考慮する点、その他項目ごとに多々ある。=教師は教科書の問題点が分かっている。

➢教師は教える時に自分が大切だと思うことを大切に、教科書の問題点を補うように工夫している。

28

課題と提言

課題

- ▶ 今回のフォローアップ調査は調査対象が少なく、データも少なかつた。また分析も十分ではない。今後しっかりとした調査をすべきである。
- ▶ 調査をして、教師が認識している教科書の良い点、悪い点をまとめる。

提言

- ▶ 教科書を使う現場の教師は勉強会で情報交換、教え方についてしっかりと議論する。
- ▶ 大学との連携をふまえ、初中等教師と大学教師の集まる場を定期的に設定する。
- ▶ 初中等教師と大学教師の勉強会場で教科書の改善を議論し、改訂作業を考える。大切なのは関係者が**協働で進めるプロセス**である。

29

参考文献

- ▶ 片桐 準二、スレンドルゴル、ダワー オユンゲレル、中西 令子、浮田 久美子、牧久美子(2016)「モンゴルにおける初中等教育機関向け日本語教科書の開発—プロフィジェンシー重視と自律学習支援への取り組み—」『国際交流基金日本語教育紀要』第12号 p.57-72
- ▶ 木下康仁(2003)『グラウンデッド・セオリー・アプローチの実践-質的研究への誘い』弘文堂
- ▶ 佐藤郁哉(2008)『QDAソフトを活用する 実践 質的データ分析入門』新曜社
- ▶ 中尾有岐・ブラバー セントーンズック(2017)「タイ中等教育向け教科書『あきこと友だち』の改訂—コミュニケーション能力の向上を目指して—」『国際交流基金日本語教育紀要』第13号 p.101-116

30



片桐先生による『にほんご できるモン』のフォローアップ調査と分析のご発表